国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

学校や同窓会が出版した被爆体験記集

動員学徒の遺品

犠牲となった動員学徒の慰霊碑

自筆の被爆体験記

被災した女学生

しまってはいけない記憶

被爆体験記にみる動員学徒

期間　8月1日(木)から平成15年3月31日(月)まで
【研修室の展示については9月30日(月)まで】

●休館日　12月29日(日)～1月2日(木)
●開館時間　午前8時半～午後6時(8月15日(木)までは午後7時まで)
午前9時　～午後5時(12月～3月まで)

展示会場

●**研修室**
(動員学徒の被爆概要)

●**情報展示コーナー**
(動員学徒に関する体験記・追悼記)

平成14年
8/1(木)開館

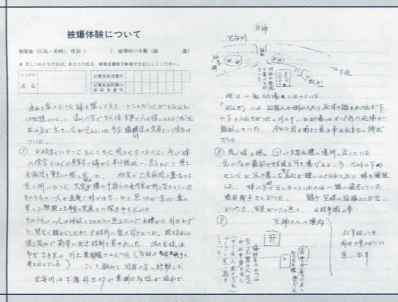
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国として原爆死没者に対する追悼の意を表し、永遠の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する世界中の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承する施設です。

入　場　無　料

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館のある平和記念公園一帯は、かつては市内有数の繁華な街で、被爆当時、そこには約1,300世帯4,400人の暮らしがありました。昭和20年（1945年）8月6日、この周辺では建物疎開が実施されており、作業に動員された人々の中には大勢の学徒が混じっていました。原爆は、住民や街並みとともに彼らの若い命を奪いました。

こうした経緯から、開館記念企画展は、動員学徒をテーマとした「しまってはいけない記憶—被爆体験記にみる動員学徒—　」を開催することとしました。若くして犠牲となった動員学徒たちにまつわる体験記。それらに綴られた学徒を始めとする被爆者の様子、消え去った街並みなどの惨状、遺族の悲しみ。これらを通して、被爆の実相や亡くなった人の無念さ、平和を希求する被爆者の思いを少しでも多くの人にお伝えできればと考えています。



■被爆体験記
平成7年度 厚生省（当時）収集

■動員に出発する学徒たち
学徒たちは動員先によっては親元をはなれ、寮に寝泊りしながら作業に従事しました。
1944年（昭和19年）6月
所蔵　新祖令呼氏　　提供　広島平和記念資料館

■建物疎開作業の様子
兵隊や義勇隊の大人がロープをかけて建物を引き倒し、その後引き倒された建物の残骸を片づけるのが、動員された学徒たちの仕事でした。
所蔵　浜田義雄氏　　提供　広島平和記念資料館

■御幸橋西詰の学徒たち
この辺りには、建物疎開作業中に被爆して逃れてきた広島女子商業学校や県立第一中学校の生徒たちがいました。
1945年（昭和20年）
所蔵　松重美人氏　　提供　広島平和記念資料館

「一時間作業し、八時休憩になり、誓願寺の大手の側で腰をかけ、友だち三人で休んでいると、ああ落下傘が三つ、きれいきれいと皆騒がれるので、自分も見ようと思い、一歩前に出て上を向くと同時に、ぴかりと光ったので、目をおさえ耳に親指を入れて伏せたら、その上に一尺はばもある大手が倒れ、腰から下が下敷きになり、頭の麦わら帽子は火がつき焼けてしまいました。

長いことかかり、大手の下から出ることができ、あたりの友だちを見れば、皆、目の玉が飛び出し、頭の髪や服はぼうっと焼けて、お父ちゃん助けて、お母ちゃん助けて、先生助けてと、口々に叫んでおりました。その時目をおさえた者が三人だけでした。『どうせ生きられないんだから、みんな一緒に死にましょう。皆さん舌をかみなさい。』…」

中島地区で被爆した広島市立第一高等女学校一年生
森本幸恵さんの母　森本トキ子氏の手記
「広島原爆戦災誌」第四巻より抜粋

展　示　構　成

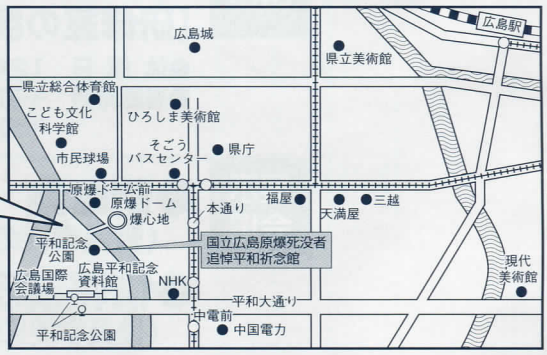
（1）動員学徒の被爆概要（研修室）

1.導　入
- ①　祈念館設置の趣旨及び経緯
- ②　祈念館建設地（旧中島地区）の被爆概要

2.学徒動員
- ①　その時代背景
- ②　戦時下の学校生活と動員の様子

3.原爆投下時の動員状況と被害状況
- ①　建物疎開と工場等
- ②　市内各学校

（2）動員学徒に関する体験記・追悼記（情報展示コーナー）



【交通案内】JR広島駅南口から（所要時間約20分）
- ●バ　ス　広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
- ●市内電車　紙屋町経由広島港（宇品）行で「本通り」下車
  広電西広島（己斐）、宮島口、江波行で「原爆ドーム前」下車

当館には、原爆死没者を静かに追悼し、平和について考えていただく「平和祈念・死没者追悼空間」や原爆死没者の遺影を通して多くの人々が亡くなった事実を実感してもらう「遺影コーナー」、被爆体験記や証言映像などを閲覧・視聴できる「体験記閲覧室」などもあります。ぜひ御来館ください。

【お問い合わせ先】　国立広島原爆死没者追悼平和祈念館　〒730-0811　広島市中区中島町1番6号　電話（082）543-6271　FAX（082）543-6273